

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

総合学科の特性を活かして地域のニーズや変化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人材を育成する。

- 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し見通すことができる生徒を育成する。
- 激変する社会の中にあっても、自らを失うことなく新しい社会を支えリードしていくことのできる「自主、自律、創造」の力を持った人材を育成する。
- 本校で身につけた力や経験に自信と誇りを持ち、培った友情をも背景として様々な困難に立ち向かっていく「人」を育てる。
- 上記の取組に際し、学校、地域における教育資源と社会資源の相互活用を図るため、開かれた学校づくりをより一層推進する。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力への取組み

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組を進める。

ア 総合学科の特性を活かした教育課程の編成を行うとともに、基礎基本の学力の定着をめざして授業改善に取り組む。

イ その際、ピオトープなどの校内教育資源とともに、福祉施設や近隣の学校園など校外の教育資源を適宜活用し、「感性が磨かれる授業、実社会との関わりを実感するような授業」をめざした取組を行う。

ウ また、団塊の世代の大量退職、大量採用時代を睨み、これまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT 機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組を行う。

\*学校教育自己診断（生徒）における「わかりやすく楽しい授業」の肯定率を、H28 には 65%以上をめざす。(H25 53%)

## 2 キャリア教育、人権教育の推進

- (1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、単なる卒業後の進路を決めるのではなく、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

ア 総合学科必修科目である「産業社会と人間」をはじめ、「総合的な学習の時間」、LHR 等を活用して、キャリア教育、人権教育、そして 23 年度から始まった「志学」を総合的・融合的に行う。

イ 総合学科の特性を活かし、“量”より“質”の希望進路の実現を図り、進路未決定者の減少に向けて鋭意取り組む。

ウ また、進学希望者が増加していることから、希望実現のための学習支援、学習環境の整備に努める。

エ さらに、生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況を把握し、小中学校と連携した取組を一層推進する。

オ そして、自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組を多面的に行う。

\*H26 に進路未定率 5%を達成し、さらなる縮小をめざす。(H25 6%)

## 3 教育相談体制の充実

- (1) 生徒理解の促進と相談体制を充実し、課題解決に向けては関係諸機関と連携し機動的な対応を図る。

ア 個々の生徒が置かれている状況を的確に把握するため、生徒・保護者との面談を丁寧に行い、生徒・保護者との信頼関係に基づいた教育活動を展開する。

イ また、中学校との連携を深め、情報の交換に努めるとともに、中学生に対して Web ページを活用して本校での高校生活を具体的にイメージできるよう発信していく。

ウ そして、相談事案は教育相談係や学年連絡会で集約し、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。その際、スクールカウンセラーを積極的に活用する。

\*学校教育自己診断（生徒）における「担任以外で保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を、H28 には 55%以上をめざす。(H25 41%)

## 4 教育活動全般を通して「自主・自律・創造」の力を育成するとともに、「繋がることの大切さ、チームの力強さ」を実感させる。

- (1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。

ア 総合学科のシステムにありがちな固定集団としての活動の少なさをカバーするため、学校行事や部活動を通して、集団としてのまとまりや縦横の連帯感から生じる新たな力や喜びを感じさせ、集団活動でのみ味わえる成就感・達成感を体験させる。

\*部活動加入率を、H28 には 55%以上をめざす。(H25 45%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学校協議会でのご意見を踏まえて、保護者向けは、質問の重なりをチェックし、質問数を 28 問から 20 問に減らしたことにより、回収率のアップにつながった (62%→76%)。生徒・教員向けは、ICT 機器の活用についての問いを新設した。生徒は年次が進むにつれ、肯定率が高まる傾向がみられる。3 年次生は半数の 14 問において、2 年次生であった昨年度より 10%以上高くなった。</p> <p>【学習指導】 総合学科の特性である多様な選択科目の開設やキャリア教育については、生徒・保護者とも 85%を超える高い肯定率を得た。「先生がプロジェクトなどを使って説明してくれることが多い(生徒)」は 45%に、「教員が ICT 機器を活用している授業が多い(教職員)」も 45%に止まり、ICT 機器の活用促進を図ることが課題である。</p> <p>【生徒指導】 「生徒指導の方針に共感できる(保護者)」は 65%であるのに対し、「先生の指導に納得できる(生徒)」は 43%と低い。いろいろな問題を見逃すことなく対応し、寄り添って指導していく中で、生徒の理解・信頼を得ていきたい。</p> <p>【学校運営】 「校内研修は教育実践に役立っている」は、7%アップし、62%となった。若手教員が増える中、内容を見直し、力量アップにつながる研修を構築していきたい。</p>	<p>第 1 回 (5 月 15 日) ○授業見学 ・「産業社会と人間」—社会に出た時にいろいろな職業があるが、子どもたちには情報が少ない。先の職業を見据えての取組は総合学科だからこそできる。 ・「総合的な学習の時間」—今日のテーマは“携帯やスマートフォンの使い方”であったが、日常生活に生きる内容。班別に活発に話しあっていたのが印象的。</p> <p>第 2 回 (10 月 2 日) ○H26 学校経営計画、進捗状況について ・授業アンケートは、年次が上がるにつれ、高くなっている点は評価できる。 ・部活動加入率が伸びていないが、勧誘することも大切だが、魅力あるクラブづくりも必要。リーダーの育成、活性化に取り組んでもらいたい。</p> <p>○H28 入学者選抜制度改善方針(案)について ・地域とのつながりを大切にされたこれまでの取組が評価されている。そこをしっかりとアピールして、志願者数の確保を。</p> <p>第 3 回 (1 月 29 日) ○H26 学校経営計画、自己評価について ・全体的にみて、生徒の満足度は高いといえる。進路実現にむけて、次の 3 点を大切に今後も取り組んでほしい。志望動機がしっかりしている。学び方のスタイルがわかっている。生活のリズムがくずれていない。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」をめざした取組を進める。                      ア 総合学科の特性を活かしつつ生徒の実態を踏まえた授業改善に取組み、基礎基本の学力の定着を図る。                      イ 学校内外の教育資源を適宜活用し、「感性が磨かれる授業、実社会との関わりを実感するような授業」をめざした取組を進める。                      ウ これまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組を進め、授業力の向上に努める。</p>	<p>○ 多様な選択科目の開講、少人数展開授業を行い、基礎基本の定着を図るとともに、進路希望に応じたきめ細かな指導を行い、進路実現につなげていく。                      ○ 農場、ピオトープなどの本校独自の教育環境を活用するとともに、地域社会をフィールドとした新たな学びを創出する。                      ○ 校内授業公開週間を設け、教科の枠を超えたベテラン教員と初任者等の授業交流（相互参観）を積極的に行い、ベテランの指導方法のノウハウを継承するとともに、若手の持つ最新の知識やスキルを交換し、学校全体の授業力の向上をめざす。                      ○ 授業アンケートの結果を踏まえ、教材の精選・工夫を行うとともに、シラバスの見直しを行い、次年度につなげていく。                      ○ 他校種と連携して、授業改善に積極的に取り組む。</p>	<p>○自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」53%を55%以上に。                      ○地元学校園、施設との交流の成果をWebページや発表会等で積極的に発信。                      ○公開授業、研究協議の回数等                      ・公開授業週間を年2回（6・11月）設ける。                      ・ICTを活用した授業力向上研修を2回実施。                      ・自己診断（教職員）の「学習指導の方法や内容について他教科の担当者とし話し合う機会がある」27%を40%に。                      ○自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」57%を60%以上に。                      ○地元の小中学校と連携し、授業見学と意見交換会を2回実施。</p>	<p>○自己診断（生徒）肯定率は49%に止まる。授業アンケートでは、数学が昨年をやや上回る。（△）                      ○Webで活動写真を毎月更新、ミニコミ紙の取材有。貝高フェスタでも発表。（○）                      ○公開授業週間を年2回実施。初任研と10年研を連動させて研究授業を実施。（○）。                      ・校内にICT研究会を立ち上げ、校内研修2回（1回は大学と連携）、先進設備の見学会も実施（○）。                      ・次年度は授業でICT機器を活用する教員数の増加を図る。                      ・自己診断（教職員）の肯定率は40%に（○）                      ○自己診断（生徒）54%に止まる。（△）                      ○地元の中学校2校の研究授業に若手教員を3回派遣、交流。（○）</p>
<p>2 キャリア教育、人権教育の推進と教育相談体制の充実</p>	<p>(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進する。                      ア 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、LHR等を活用して、キャリア教育、人権教育、「志学」を総合的・融合的に行う。                      イ 総合学科の特性を活かし、「量」より「質」の希望進路の実現を図り、進路未決定者の減少に向けて鋭意取り組む。                      ウ 生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況の把握に努める。                      エ 自立支援コースの生徒の進路実現に向けて取組を進める。                      (2) 教育相談体制を充実させる。</p>	<p>○ H25作成の「貝高キャリア教育」の冊子を活用し、本校のキャリア教育の実践を継承していく。                      ○ 同一の進路目標を持つ生徒同士で高めあう集団づくりに取り組む。                      ○ 進学希望生徒の増加を踏まえ、自学自習できる学習環境の整備に努める。                      ○ 小中学校と連携し、生徒・教職員の交流を積極的にすすめる。                      ○ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに、本人・保護者の意向を踏まえ、府教育委員会、地元職業安定所など関係諸機関とも連携し就労に向けた取組を多面的に行う。                      ○ 「高校生活支援カード」を積極的に活用していく。                      ○ 教育相談室の整備に努める。</p>	<p>○自己診断（生徒）「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」58%を60%以上に                      ○看護希望者の希望実現率を80%以上に（H25 76%）                      看護希望者の合格に至るまでの受験回数平均 2.5回以下に（H25 2.9回）                      ○就職一次合格率、二次以降合格率ともに70%以上を堅持する。                      進路未定率を5%以下に縮小させる。                      ○小中学校とのキャリア教育・人権教育に関する交流を2回実施。                      ○自立支援コース生の希望を叶える職場実習先を開拓し、就労につなげる。                      ○自己診断（生徒）「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」41%を45%以上に。</p>	<p>○自己診断（生徒）肯定率は、58%に止まる。（3年次は70%）。（△）                      ○看護希望者の希望実現率83%、合格に至るまでの受験回数平均、2.2回を達成。（○）                      ○就職一次合格率86%、二次も71%と健闘。（○）                      ・未定率5%未満が達成できるよう卒業後も追跡指導。（△）                      ○本校で小中学校の教員・生徒との人権教育交流会を2回開催、小中学校の人権研修に講師を派遣。小学校の2分の1成人式に生徒を派遣。（◎）                      ○自立支援コース3年次生の希望にそった職場実習先を開拓、就職が内定。自立支援の「進路のてびき」を改訂。（○）                      ○自己診断（生徒）肯定率は39%に止まったが、SCの午後の回数増を図り、生徒・保護者の相談件数が増えた。（△）</p>
<p>3 「自主・自律・創造」力を育成し、繋がることの大切さ等を実感させる。</p>	<p>(1) 多様な学びを通して身につけた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。                      ア 総合学科のシステムにありがちな固定集団としての活動の少なさをカバーするため、学校行事や部活動を通して、集団としてのまとまりや縦横の連帯感から生じる新たな力や喜びを感じさせ、集団活動でのみ味わえる成就感・達成感を体験させる。                      イ 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。</p>	<p>○ 修学旅行をはじめ、学校内外で多くの感動を体験させ、自己肯定感を高める取組を推進する。                      ○ 多様な学びを通して身につけた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。                      授業においても、探究活動や発表活動を積極的に行い、それぞれの気づきや学びに基づいた自主的活動を促進し、互いに発表しあうことでコミュニケーション能力を高める。                      ○ 集団活動の少なさをカバーするため、体育祭、文化祭等の行事に工夫を凝らし、クラスのまとまり、単なる「仲良しクラブ」ではない仲間づくりを進める。                      ○ 仲間づくり、自律的な成長に部活動の果たす役割は重要との認識のもと、生徒の主体的な意見を取り入れて、部活動の活性化、新入生の加入率を上げる取組を行う。                      ○ 生徒がかかわることにより、広報活動の活性化を図る。</p>	<p>○自己診断（生徒）「学校に行くのが楽しい」71%を75%以上に。                      ○貝高フェスタ（H27.2）での生徒の発表内容の充実度、完成度（教職員による前年度との比較検証）。                      ○自己診断（生徒）の行事満足度65%を70%以上に。                      ○部活動の加入率1年次49%を50%以上に。                      ○Webページで、「生徒の活動の見える化」に取り組み、月1回以上更新する。                      ○中高の部活動の交流の参加者数の1割増を図る。                      ○生徒が作成した広報活動の成果物。</p>	<p>○自己診断（生徒）肯定率67%に止まる。（△）                      ○貝高フェスタでアンケートを実施。地元の幼稚園とのコラボによるダンスが好評。（○）                      ○自己診断（生徒）肯定率60%に止まる。体育祭団編成を年次縦割りに変更。応援合戦が充実（満足度84%）。（△）                      ○部活動加入率は、9月末で1年39%、全体43%に止まるが、部員有志による始業前地域清掃活動は1年間継続中。（△）                      ○「写真でみる貝高生」をWebで毎月更新。アクセス数、前年比1.25倍増（73件/日）（○）                      ○バドミントン部、陸上部、男子バスケットボール部、女子バレーボール部で中高交流を実施。のべ参加者数は585名、前年比1.4倍増。（◎）                      ○広報用ポスター、チラシ作製に写真同好会、書道部が協力。作品は中学校でも好評。（○）</p>